

女子大学生の雨中人物画における描画特徴

廣田愛海・平野真理
 (東京家政大学大学院人間生活学総合研究科)

目 的

雨中人物画 (Hemmer, 1958) は、雨の中の人物を描いてもらうことで、ストレス下の自己イメージや、防衛能力を測定する方法で、特に病院臨床場面で発展してきたテストであるが、バウムテストのような他の描画テストに比べて知見は少なく、解釈の明確な指標は明らかになっていない。しかし人物画は比較的意識された自己像や欲求、感情などが表現されやすく、非言語的な自己表現を受け止めるのに適している (三上, 1995) ため、「雨」に象徴される不快なストレスの中での、被検査者の自己イメージや適応感の特徴を読み取る方法として有用であると考えられる。そこで本研究では、大学生を対象に雨中人物画を実施し、そこに投影される描画特徴をカテゴリーに分けて集計し心理アセスメント技法としての体系化に向けた基礎的知見を得ることを目的とする。

方 法

1. 実施時期 2015 年 5 月から 2017 年 5 月
2. 対象者と実施手続き 女子大学生に対して心理学に関する講義中に実施し、その後に研究協力の同意を得られた 268 名を対象とした。
3. 雨中人物画 A4 の紙に枠づけをしたものに、「雨の中の 1 人の人物 (164 名)」または「雨の中の自分 (104 名)」を描いてもらうように指示した。
4. 分析方法 描画について「雨」「傘」「人物」「雲」の特徴のカテゴリー分類を行った。また、その他によく見られた描画特徴についてもカテゴリーとして取り上げ、カテゴリーとしてまとめた。それぞれの描画特徴の出現率を集計して算出した。

結 果

描画特徴カテゴリー 「雨」は 8 個、「傘」は 7 個、「人」は 15 個、「雲」は 6 個、「その他よく見られるもの」は 4 個のカテゴリーに分けられた。それぞれの描画特徴の出現率は表のとおりであった。

考 察

雨については、点線、粒、直線で描く者が多く、過半数が強めの筆圧で描く傾向が見られた。その中で、雨が描かれていない描画が 2.99%と少数見られていた。次については、傘を描く者が 84.33%いる一方で、「傘あるが差さず」「傘が別位置」といったように傘を雨除けに利用していない描画も見られた。人物については、人を描くようにという教示にもかかわらず 1.12%の人が人物を描いていなかった。雲については、描かれた雲のうち 20.15%が白い雲であったが、その中でも表情がついていた雲が 1.12%あった。その他では、水たまりを描いたものが 33.58%、長靴・コートが 23.51%、動物が 12.69%、植物が 10.82%あった。こうした稀有な描画特徴が、何らかの適応の指標となる可能性があると考えられるため、今後これらの描画特徴とほかの変数との関連を検討していくことが望まれる。

表. 雨中人物画にみられる描画特徴の出現率 (n=268)

		単位 (%)		
雨	点線	32.46		
	粒	43.65		
	直線	42.91		
	斜め	21.64		
	黒く塗りつぶし	1.12		
	ダイヤ型	0.37		
	雨なし	2.99		
	強い筆圧	64.18		
	傘ありなし	84.33		
	傘あるが差さず	1.49		
傘	傘歪み	5.60		
	傘に入らず	7.09		
	傘に模様	13.06		
	傘が別位置	1.87		
	大きすぎる	5.22		
	棒人間 (表情あり)	11.57		
	棒人間	12.31		
人	顔のみ	1.87		
	傘で顔隠し	4.10		
	前	76.87		
	後ろ	5.97		
	横	10.82		
	小さい	54.85		
	大きい	42.54		
	表情なし	23.51		
	座る	1.49		
	裸	4.10		
	足描かない	4.48		
	途中で消える	7.09		
	人物なし	1.12		
	雲	一つ	7.09	
		数個	16.42	
空全体		12.31		
表情		1.12		
白い		20.15		
黒い		4.10		
その他	植物	10.82		
	動物	12.69		
	長靴・コート	23.51		
	水たまり	33.58		